

# 10月30日 活動発表会・意見交換会

## 活動発表会（アクション・プレゼンテーション）

森林・里山における「人と自然のつながり」をテーマとする啓発・教育活動を実施した8団体と企業2社が、活動成果を発表しました。

### ～エコの心を育てよう～

株式会社 豊田自動織機

製造部門の若手リーダーによる自主組織（全社班長会）は、エココロ間伐、ものづくりCNV交歓会活動、食物づくり他を社会貢献活動として実施している。海上の森では2009年から愛知県と連携して森林整備を始め、2011年から、間伐した木材を活用してものづくりを行っている。できたテーブルやベンチは福祉施設へ寄贈されている。



### 五感を使った森体験と創作活動

鎮守のもりのなかまたち

子どもたちの感性から学ぶことをねらいに、海上の森で創作活動を行った。子どもたちが1日観察し、じっくり向き合って描いた木の絵はどれも個性的な作品となった。現在、あいち海上の森センターで常設展示されている。



### 森はアトリエ IRO TO OTO 海上の森をアフリカの風が吹きぬける

tre punte(トレプンテ)

アートな視点を取り入れたプログラムによって「人と地域」そして「人と人」をつなぐことをめざして活動している。今回は海上の森を会場として「色と音」をテーマにしたプログラムを展開。アーティスト&ミュージシャンと共に森を楽しむワークショップを開催した。



### 夏の森の子ども自然体験 in むささびっ子の森 むささびっ子の森くらぶ～ムササビに会いに行こうキャンプ～

NPO チームぼんどり

海上の森を中心に、子どもとその保護者を対象とした自然体験プログラムの企画・運営を行っている。今回はムササビの観察を行い、生態について学んだ。参加者で作った巣箱は、海上の森の中で付け替えに使用された。



### 森のギャラリー

森あそび応援隊

市民による竹林整備を応援しながら活動をしている。海上の森で、里山の自然と歴史が感じられる3つのワークショップを行い、粘土・古新聞・竹を使って工作をした。最後は「森のギャラリーカフェ」で参加者同士の交流が行われた。



### へボがいるよ！ 伝統的里山文化に学ぶハチの魅力と自然とのつきあい

全国地蜂連合会

地蜂とはクロスズメバチのことで、方言ではへボなどと呼ばれている。伝統的な地蜂食文化の向上と地域活性化への貢献を目的に活動している。今回、海上の森で生息調査、飼育の観察、収穫から試食までを実施した。



### 海上の森からはじまるおうちご飯

Mariam-Kitchen(マリアム キッチン)

食や農に興味を持ち、田畑に携わる活動をしている。海上の森の休耕田を活用し、マコモと水稲の混植を行った。地域の人々や文化を大事にして、生物の多様性やつながりに配慮しながら収穫まで行った。



### ～掘だそう、自然の力。～

カルビー株式会社

2012年から、愛知県と連携して、海上の森で森林整備を実施している。コミュニティへの貢献を大事にし、全国各地域で社会貢献活動を展開している。創業時の様子や商品開発等の会社の紹介など。



### 三ヶ峯里山計画「森の風の道を作る」 地域の生態系から生まれるアートとデザイン

愛知県立芸術大学石井研究室と有志の会

草刈りや間伐、薪割り体験などを通して、里山と森林の成り立ちと管理について学んだ。学んだことを応用して、大学の敷地内で学生や地域の人たちと、森林整備や、生物の観察などを行い、情報発信していく。



### 海上の森で「ひきこもり」 森の中で自分の居場所を見つけよう

NPO 法人社会復帰支援アウトリーチ

大人の引きこもりの社会復帰に取り組んでいる団体。森の持つ再生や癒しの力に注目し、マインドフルネスヨガ、ヒプノセラピー、塗り絵セラピー等の体験活動を実施した。実施の前後でストレス度を測定し、効果を検証した。



## 意見交換会（グループディスカッション）

名古屋大学大学院生命農学研究科の田中隆文先生をファシリテーターに迎え、名古屋わかもの会議の水野翔太氏と、活動発表を行った団体と企業を含む参加者が、3つのテーマに分かれ、意見交換と発表を行いました。

- A. 里山の環境・文化
- B. 人材の育成、地域の活性化
- C. 協働と企業のCSR活動



発表後に、田中ファシリテーターから総括があり、「つながりが重要であることは、このフォーラムでも指摘され、多くの方が言っておられるけど、さらにそれを物語りにしてためには、いろいろ背負っている経験や事情や、思い、願い、期待とかも伝えていかなくてはならないということが確認できたと思います。そのためにも、人と自然の国際共生フォーラムの活動を続けて、来年、またこの続きを語ろうではありませんか。」とのコメントをいただきました。

## 市民の EXPO

自然環境関係団体・企業等による展示や工作の体験ブース出展やステージ演奏など。

この他、午前中の名古屋わかもの会議による「海上の森の探検（エクスカージョン）」があり、お昼には NPO 法人海上の森の会のご協力により、「海上の里の恵み（餅つきや鍋）」をふるまいました。





## 第10回フォーラム宣言

私たちは、これまでのフォーラムを通じて、里山が人と自然を結び付け、地域づくりの場として重要であることや、自然を持続的に利用する生き方の大切さを学んできた。また、森林・里山から里海まで、自然が密接なつながりを持つこと、人間の活動が与える自然への影響を十分に考慮して行動することの大切さを再確認した。

このフォーラムは10年にわたって豊かな自然を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会を実現するための議論を重ねてきた。これまでの成果を踏まえて、以下の宣言を行う。

- ① 森、里、川、海の身近な自然や地球環境と人の営みとの「つながり」の価値を認識し、自然と人との双方が豊かになる関係性を保つ。
- ② 里山資源を見出し、活用することで、地域の活性化及び文化・伝統の継承と創造に取り組む人材を育てる。
- ③ 森林・里山の維持と活用に対する企業と市民の「意欲」を相互交流により刺激し、協働による活動を広げる。
- ④ 愛知万博の理念を継承し、取り組んできたフォーラムの成果をもとに、今後とも県民が一体となり、人と自然の共生する社会を目指すための運動を展開する。

今後、これまでの取り組みを未来に向けて発展させるために、県民、行政、企業、学校など、多くのセクターの参加による「あいち海上の森フォーラム(仮称)」を新たに起ち上げ、成果を広く発信すると共に、宣言に基づく具体的な行動を通して、人と自然が共生する社会づくりを目指していくことを約束する。



平成28年10月29日 第10回人と自然の共生国際フォーラム参加者一同





Kaisho SATOYAMA Forum

第10回  
人と自然の  
共生国際フォーラム

The 10th international Forum on Interrelationship  
between Nature and Human Beings

第10回 人と自然の共生国際論壇 | 제10회 사람과 자연의 공존 국제포럼 | 10º Fórum Internacional de Convivência entre o Ser Humano e a Natureza



## 人と自然の共生国際フォーラム実行委員会

事務局：あいち海上の森センター

郵便番号 489-0857 住所 瀬戸市吉野町304-1

TEL 0561-86-0606 FAX 0561-85-1841 E-メール kaisho@pref.aichi.lg.jp

人と自然の共生国際フォーラム

検索

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/forum.html>



この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。  
このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています